

---

# チューリップと太陽

猫夢汰

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

チューリップと太陽

### 【Nコード】

N0010H

### 【作者名】

猫夢汰

### 【あらすじ】

生まれて来てずっと不幸続きの女の子「あゆ」友達・恋愛・家族…全部が自分に取って最悪の人生だと思い込んでいた。。。そんな「あゆ」が24年間の人生の中で心から本当にある男と恋に落ちた。。。やっと自分にも春が来た… 幸せって始めて思えた…。続きを読んで下さい・・・「これは実話です」

## チューリップと太陽1「中学生時代」

小学生の頃からまじめで大人しかったあたしは  
学校では目立たないタイプで  
友達もそんなにいなかった。

毎日家に帰ってはぼーっと

1人でいる事が多かった。

あたしの父親は昔から酒癖が悪く  
帰って来ては暴力の毎日…。

あたしはそんな父親が大嫌いだった。

こんな男と一緒になった母親を  
恨んで毎日腹がたっていた。

学校も楽しくない…家も最悪…。

そ　　てある友達との出会いが

キツカケで今までの真面目

だったあた　　が

全く逆の自分になっていった。

友達の名前は

「みーこ」

県外から引越　　て来たらしい。

あた　　はすぐにそのみーこと

仲良くなった

その子はかなりの不良でタバコに夜遊び・酒・

髪は金髪で学校にも行かないというあたしとは全く違うタイプだった。

仲良くなっていくうちに  
だんだんと自分も夜遊びを  
する様になった…。

毎日暴走族の仲間と遊びいろんな男と  
遊びまわるのが楽 かった。

そ てあた は家にも帰らなくなり  
学校にも行かなくなって まった…。

## チューリップと太陽 2「出会い」

毎日みーこと遊ぶ日々…

ある日みーこがベル友が出来たと  
言ってきた。

会いに行くから一緒にきて??

そう言われてあたしは言われる

ままみーこのベル友に会いに行った。

そこには2人の男いた。「始めましてえ」と男の1人が

あたし達に声をかけてきた。

彼の名前はたー君。

あたしの第一印象がかっこいい人だな  
って思った。そのまま彼の家へ…。

話しも合い何度か遊ぶうちに

あたしはたー君を好きになっていった。

好きになってあたしはたー君に

告白した。でもたー君には

彼女がいて

「今は付き合えない」

という返事…。あたしは失恋した。

それから何ヶ月か経って今以上に

男遊びをする様になった。

そして中学生最後の夏…

ある男の子供を妊娠した。  
その男はかなりの遊び人で  
付き合ってた女はあかし以外に  
4人もいた。あかしは中学生で  
妊娠してしまったのは自分の  
責任だと思いその男には言わなかった。

この子を下ろすか産むか…  
あかしは中学生なりに悩んだ…。  
まだ自分は子供…産んでも  
育てられない。  
でもあかしは決断した。  
このお腹の子を産もう。子供には何の責任もない。  
そしてあかしは子供を産む事を

決めた。1人で産んで1人で  
育てよう。親には言えずに  
4ヶ月が経った。

そんな時1人の先輩に出会った。  
その先輩はあかしの事をすごく  
可愛いがってくれた。

あかしはその先輩に妊娠してる  
事を相談した…。

先輩は  
「絶対男に言った方がいいよ」  
と言った…。あかしは先輩と  
その男の家に行く事にした。

家について電話で男を呼び出した。  
そしてあかしが妊娠の事を  
打ち明けると

「俺には関係ないし」

やっぱり想像通りの答えが返ってきた…。

「もういいです。」先輩に

そう言つてその男の家を後にした。

やっぱり男なんて最初から信用

出来ない。あたしはそう思った。

あたしは家に帰つて親に打ち明けた。

親はかなり激怒し下ろせと

言つてきた。

でもあたしは産みたいと言つた。

でも親は絶対に許さないと

あたしを殴つた。

中学生で妊娠：当たり前前に

許して貰えるはずがない…。

あたしはその日から自分の

家には帰らず先輩の家に泊まっていた。

先輩は産婦人科に行くお金も

産む時のお金も心配しなくて

いいから。と言つてくれた。

あたしは自分がしてる事は

絶対に間違つてる事だと分かっていた。

でもどうしても子供を下ろす事が出来なかった…。

### チューリップと太陽 3 「妊娠」

それから気が付くと7ヶ月経っていた。  
学校にも行かず家にも帰らず…  
そんな毎日が続いた。

そんな時先輩の家に警察が来た。  
親が搜索願いを出したらしい…。  
あたしは抵抗したが結局家に  
連れ帰された。

家に帰って親はあたしに  
「そんなに子供産みたいなら  
産みなさい」そう言ってきた。  
あたしは男の事も全部話した。  
親はかなり怒ったが最後には  
「分かった」と言ってくれた。

そして臨月…お腹もかなり大きく  
なってきた。

学校には事情を話してあたしは  
中学校にはもう行けないと  
言った。先生も初めはびっくりしていたが  
先生は

「じゃあ卒業証書だけでも  
届けるから」と言った。

そしてあたしは中学生で子供をそしてあたしは中学生で子供を  
出産。

「男なんていなくても  
この子はあたしが育てる」  
そう決めて立ち会いもなく  
出産…。女の子だった。 本当可愛くて産んで良かった。  
そう思えた。

出産してから3ヶ月。  
あたしは友達とお祭りに行く事にな  
った。 ひさしぶりに友達と  
出かける。 あたしは嬉しくて  
前の日から張り切っていた。

そしてお祭り当日…。  
友達と歩いていると携帯が  
鳴った。

「誰だろ??」  
着信は子供の父親だった。  
電話に出ると

「ひさしぶり。 今お祭り来てる?」  
あたしは  
「今友達と来てるけど?」

そういうと男は  
「ちょっと会って話せない?」  
と言ってきた。  
「いいけど…」

待ち合わせをして何ヶ月かぶりの  
再会。 男は前と全く変わっていなかった。

「話して何??」

あたしは聞いた。

男は

「お前俺の子供産んだらしいね。友達から聞いた」

「産んだけど??それが??」

あんた関係ないって言ってたじゃん」

あたしがそう言うと男は

「今まで他に女遊びしてたけど

絶対ちゃんとするからやり直してくれん?」

「え?」あたしは耳を疑った。

この男が真面目に父親できるの?...

そう思った。でも男は必死で

あたしと一緒になってくれと

頼んできた。

あたしは男の事をまだ心の

どこかで好きだった...

「本当に女遊びもやめて真面目にしてくれんの?」男は

「絶対約束する」と言ってきた。

それからあたしはあいつの言葉を信じてやり直す事にした。

## チューリップと太陽4「結婚生活」

あたしはお祭りが終わった後  
男の家に行った。

男の名前は

「ひろ」何ヶ月ぶりに  
ひろの部屋に入ったんだろ…  
あたしはそう思った。

ひろはあたしに

「親には一緒に

なるって言うから」

そう言っで下に降りて行った。

何分か待っているといひろが

2階に上がってきた。

「俺の親が会いたいってさ」

あたしは緊張しながら1階へ…。

そこにはひろのお母さんが座っていた。

「初めまして…」あたしは

一言そう言っで下を向いたまま

黙ってしまった…。

ひろはお母さんに事情を話し

初めはかなり怒っていたが

もう産まれたなら仕方ないし

2人で一生懸命頑張っでその子を

育てなさい。と言っでくれた。

あたしはほっとした。  
これからはまた新しいあたしの人生なんだ。  
そう思った…。

夏になりひろの家で  
同棲をする事になった。 子供を連れて今日からひろの親とその家  
族と一緒に生活。

あたしは上手くやっていけるのか  
少し心配だった…。  
初めの6ヶ月位はひろも優しく  
親も良くしてくれて結婚生活は  
順調だった。

あたしは17サイになり2人目の子供を出産した。  
1人目は女の子。2人目は男の子だった。  
あたしは若いなりに毎日一生懸命  
子供の為に仕事をしながら家事も  
頑張つてやっていた。  
これが幸せなんだなって初めて  
思った…。

下の子供が3ヶ月になり上の子は2サイに  
なった。  
その頃から旦那は何故か夜帰ってくるのが  
だんだんと遅くなってきた。

あたしはいきなりなんだろう…??  
毎日ちゃんと帰ってきてたのに…。

あたしは帰りが遅い旦那に

「なんで毎日帰り遅いの??」  
と聞く。旦那は

「仕事が最近忙しいから  
帰りが遅くなる」と言った。

でもあたしはそんなに毎日仕事が遅いなんて  
絶対嘘だと思った…。

一週間経ったある日旦那は  
携帯電話を忘れて仕事に出た。

あたしは絶対携帯を見ちゃいけない。

そう思い気になりながらテーブルの上に  
置いたままにした。

## チューリップと太陽 5 「旦那の浮気」

あたしは携帯電話が気になりながら  
家事をしていた。

その時旦那の携帯電話が鳴った。  
あたしは誰だろう？と思いきドキドキしながら  
着信を見た。

そこには知らない番号…まさか女？？  
あたしはそう思った。

また1時間後同じ携帯電話から  
着信…あたしは気になり電話に  
出てしまった。

「もしもーしひろ??」向こうから  
女の声…??

あたしはやっぱり女だった…  
そう思い

「誰ですか？旦那は仕事に  
行ってるケド??」  
とあたしは言った。

女はびつくりした様子で  
「え？あなたこそ誰？」  
と聞き返してきた。

「ひろの嫁だけど??あんだどういう関係なの??」  
あたしは怒り口調で女に聞いた。

女はひろに奥さんがいた事を  
知らなかったらしく  
全部あたしに話してきた。  
相手の女がひろと出会ったのは  
3ヶ月前でたまたまひろが飲みに出ている時に声をかけられ知り合  
ったという。  
1ヶ月前から付き合っていたと  
女は言ってきた。

あたしはじゃあ体の関係もあるわけ??  
と聞くと女はまだ10代らしく  
「あたしは本当に惚れてたので  
誘われても怖くて出来なかつたんです」  
と言って泣き出してしまった。  
ひろはその女とデートしたり  
夜景を見に行ったりしていたらしい…。

あたしはその時怒りが込み上げてきた。  
自分は毎日子育てと家事をしながら  
夜も遊びに行かずひろの親に  
気を使いながら生活をしているのに  
あたしってなんなの…??  
そう思うと自分が惨めで仕方なかった…。

女と電話が終わりあたしは  
ずっと考え込んでいた。

やっぱり旦那に言うしかない。  
そう思い旦那の帰りを待った…。

夕方になり旦那が家に帰ってきた。

2階に上がってきてすぐに

ひろ

「俺携帯忘れてなかった??」

あたし

「忘れてたよ。昼間女から

電話あったんだけど??」

ひろ

「は?まじで?お前電話出たん?」

あたし

「鳴ったから出たけどなんかまずかった?」わざとらしくそう言った。

ひろは焦った様子であれば

友達なんだと言い張ってきた。

あたしは

「へえ…あつちは

友達とは言つてなかったけど?

付き合つてたらしいじゃん」

隠し続ける旦那に腹が立ち気持ちを

押さえ切れずあたしははつきり

旦那に

「浮気する位なら別れてくれん?一生懸命やってる自分が馬鹿らしいわ」

そう言いあたしは子供を連れ出て行くこととした。

後ろからすぐに旦那が追いかけて

きた。

「待ってくれ!あの女の事は

遊びだった!本当に大事なのはお前だから。

別れないでくれ…あの女とは

切るから…」

そう言つて泣いて謝つてきた。

あたしは

「あんたみたいな男は

いらないうんよ！あの女の所にも行けばいいわ！あたしはもう無理

だから。」

それでも旦那はしつこく許してくれと

頼んできた。もう絶対にしないから…

お願いだから…とずっと言い続けてきた。

あたしは結局次は絶対無いからね！

そう言い旦那を仕方なく許した…。

## チューリップと太陽 6 「壊れていく生活」

旦那に浮気されてから  
半年が経った。

あたしは旦那の事を  
大好きだった前とは違い感情が  
あまり無くなっていた。 ただ子供がいるから一緒に  
いるだけなんだろうな…と  
自分の中でそう感じていた。

あたしは子供も保育園に行き  
手がだいぶ離れて昼間の仕事を  
始めた。 今までは家の中に  
ずっといてオシヤレもする事が  
無かった。 でも仕事を始めて  
あたしはまた前のように化粧をして  
服も派手になっていった。  
このままオシヤレも出来ないで  
おばサンになるなんて絶対嫌…。  
そう思いあたしは自分磨きをしようと  
思った”

旦那は変わっていく私に不満そう  
だった…。

毎日今日はどこ行ったん？と聞かれ  
電話は毎日かかってくる。  
仕事が少しでも遅くなると

「こんな時間まで何やってんの？」  
と聞かれあたしは毎日毎日  
自分の行動を聞かれるのが

本当に嫌だった。

遊びに行ってもないし仕事して帰ってきてるだけなのになんて言われなきゃいけないの？あたしはストレスがどんどん溜まっていった。

あたしは仕事場で友達ができた。その友達とは気が合い話しもあった。

あたしはちょこちょこその友達と遊びに出かけたり買い物に行ったりしていた。

久しぶりに自分の時間ができた。あたしはストレスが少し無くなったように感じた。

でも相変わらず旦那との溝は深まるばかり…。旦那はいつしか嫉妬深い男になっっていた。

私とあの人が入れ代わったかのように正反対になっっていた。

私は自分の父親に暴力を振られていたあの頃の記憶が蘇ってきて怖くなった…。

それからというもの旦那は喧嘩するたびに暴力を振るようになってしまった。

暴力を振った後は必ず優しくなり

謝ってきた…。

あざだらけになっていく私に

「俺のせいだ…ごめん…と言ひ

泣きながら謝ってくる」

毎回同じ事の繰り返し…

私は結局この人も父親と同じで

暴力振るえば言う事聞くと思ってる…

そう感じた…。

殴られる痛みよりもなんだか心の

傷の方が深くなっていった。

私は殴られる毎日とストレスで

精神的におかしくなってしまった。

私は浮気も今まで一度もした事も

無いのに旦那はお前浮気してんだろ？

と言ひまた殴る…

私はこのままだと最後には殺される…恐怖感まで感じた…。

私はさらに精神的におかしくなり

家からも全く出ず家の事も何もかも

する意欲が無くなってしまった。

子供が帰ってきてても何もせず

毎日携帯を触る毎日…。

誰かに話しを聞いて欲しくても誰にも言えなかった…。

結局私はストレスが溜まると自分で

自分を殴りいきなり叫びだし

感情をコントロール出来なくなつて

しまった…。

私はお酒にまで頼るようになった。

毎日お酒を大量に飲み旦那が帰ってくる 때마다喧嘩…

今まであんなに頑張っていた時の自分は

いつしか消えて無くなっていった…。

幸せの力ケラさえどこにも無かった。

結婚生活は本当に散々だった…。

自分が描いていた結婚生活

とは全く違っていた…。

チューリップと太陽 7 「壊れていく生活」続

何日か経ちあたしは旦那との離婚を考える様になっていた。

このままだと自分自身がおかしくなってしまう…でもあたしには子供がいる…

毎日毎日自分の感情との戦い…。

今日切り出そう…今日は言おう…

そう思いながら1日が過ぎていく。

だんだんとあたしは旦那との

会話も無くなり家庭内別居状態。

あたしはストレスが溜まりおかしくなる一方。

ある日の夜旦那があたしに

話が見たいと言ってきた。

あたしは

「話って何？」そう聞くと旦那は

「お前最近

全く俺と喋らんしどうしたいわけ？

まさか好きな奴でも出来た？」

また男の話し…。

「なんでいつも何かがあると男なわけ？

毎回毎回…いい加減にしてよ！毎日

チクチク言われてあたし浮気なんて

あんたにされたただけで絶対してないから！」

旦那は

「嘘つくな！絶対そうなんだろ！」

そう言い勝手に決め付ける…。

反抗すればまた殴られる…

もう嫌だ…。自分の言い分ばかり

押し付けて自分が1番だと思ってる…。

あたしは涙が止まらなくなった。

あたし自身の思いも気持ちも

全く出せない…。

なんで？こんなに我慢しなくちゃ

いけないの…？

それでも言い続ける旦那に

あたしはまた自分をコントロール出来なくなり

近くにあったハサミで自分のふとももを

刺し続け泣き叫んだ…。

ふとももからは血が流れ出し

痛みも感覚も無くなった。

旦那は

「お前おかしいんじゃない？

毎日狂って頭おかしくなつたんじゃない？」

「あんたのせいよ！前のあたしの方が

よっぽどまだましだった！」

旦那は狂つたようになった

あたしを

「うるさい！黙れ！」

と言い殴りかかってくる…。

いつその事このまま殺された方がいい…

そう思った。

でもこの男のせいで不幸のまままで終わるのは

絶対に嫌だ…！絶対嫌！

あたしは家を飛び出し逃げた…。  
追いかけてくる旦那に

恐くなりそのまま車で夜中

実家へ助けを求めた。

「ピーポーン」

「ピーポーン」

家の中から母親が出てきた…。

「こんな時間にどうしたの!？」

びっくりする母親。

「もうあたしあの男と一緒に生活するのは  
無理！おかしくなりそう！

助けてお願い。

別れたい……」

そう言うとき母親は話を聞いてくれた。

あざだらけのあたしに何かを

感じたのか泣いて叫ぶあたしの話を

何も言わず聞きあたしが話し終わると

「あゆが今まで我慢してきた事は

よく分かったから。お父さんと

ひろ君と話し合いました方がいいわね。

今日は遅いからひろ君には

あたしが言っておくからゆっくり

寝なさい」そう言うとき母親は部屋に

戻っていった…。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0010h/>

---

チューリップと太陽

2010年10月29日10時26分発行